

C-3 学習の手引き LCT69(10-1)

<教本範囲外 Word> (数字はパラグラフ番号)

なし

<説明> (数字はパラグラフ番号)

1. **Japan's Tokai University team:** 東海大学は、1993年からワールド・ソーラー・チャレンジに出場しており、2009年と2011年の大会で2連覇を達成した。しかし、2013年の前大会では惜しくも準優勝に終わったことから、優勝奪還を目標に、パナソニック株式会社、東レ株式会社、株式会社ブリヂストンなど国内の有力企業から協力をもらい、新型車両の開発を進めて来た。今回2015年型「Tokai Challenger」を製作し、レースに参加した。
2. **The team on Thursday crossed the finish line in third place:** 東海大学チームの「Tokai Challenger」は、10月17日に実施された予選を8位(出場したチャレンジャークラスでは6位)で通過した。翌18日にダーウィンをスタート。およそ3000キロメートルに及ぶ長い道程や、厳しい暑さなどの過酷な環境のためリタイアするチームもある中、22日は4位でスタートし、ねばり強いレース展開をみせ、前を走るアメリカ・ミシガン大学チームを追い抜き、1位のオランダ・デルフト工科大学の「Nuon Solar Team」、2位の、同じくオランダ・トゥウェンテ大学の「Solar Team Twente」に続き、3位でゴールした。
2. **in the time-based challenger class:** ワールド・ソーラー・チャレンジ(WSC)には3部門があるが、出走車両が最も多く、WSCの本流となっているのが、タイムを競うチャレンジャークラスである。今回29チームが参加し、20チームが完走した。
2. **the World Solar Challenge:** ワールド・ソーラー・チャレンジは、10月にオーストラリアで開催される世界最大級のソーラーカーレースで、1987年より開催(1999年以降は隔年開催)されている。太陽光をエネルギー源として、オーストラリア北部の都市「ダーウィン」から、南部の都市「アデレード」まで、オーストラリア大陸を縦断し競う。今大会には、25の国と地域から43チームが参加した。チャレンジャークラスには、前回覇者のオランダ・デルフト工科大学、イギリスのケンブリッジ大学、アメリカのミシガン大学、スタンフォード大学、マサチューセッツ工科大学など世界有力チームが参加。国内からは、東海大学の他、名古屋工業大学、金沢工業大学、呉港高等学校(広島県)が参加した。工学院大学はクルーザークラスに参加した。
3. **Challenger-class teams had to ... and energy storage devices.:** チャレンジャー

クラスに出走するソーラーカーの太陽電池パネルは、最大 6 平方メートル以下で、バッテリー（蓄電池）は、リチウムイオン電池の場合最大 20 キログラムまで搭載可能である。乗車出来るのはドライバーのみの一人乗りである。

4. **The manager of the Tokai University team ... to win the race.:** 東海大学ソーラーカーチーム監督の福田准教授は、「優勝を目指してきたのでとても悔しい。しかし、様々なトラブルがあっても最終日に 3 位に逆転できたのは、パナソニックの HIT（太陽電池モジュール）とリチウムイオン電池等のマシン性能の高さと、学生のチームワークが結びついた結果だと思う。他のチームもマシン性能を上げて来ている中で、東海大学としても引き続きレベルアップしていきたい」とコメントした。
4. **Japan's cutting-edge technologies sponsored by Panasonic Group.:** パナソニックは 2011 年から、発電量トップクラスの太陽電池モジュール「HIT」と高容量のリチウムイオン電池の提供等を通じて東海大学ソーラーカーチームを支援している。
5. **It consist of three categories:** クルーザークラスでは、より一般的な乗用車に近いソーラーEV 使用となっており、運転手と助手の 2 名が搭乗する。タイムのほか実用性も審査の対象となる。日本の工学院大学のチームが、2 位に入った。工学院大学チームはタイムではトップだったが、実用性の審査などでライバルのチームに差をつけられ優勝を逃した。今回は、11 チームが参加し、完走は 5 チームであった。アドベンチャークラスでは、車は 3 輪車仕様で、運転手のみ搭乗する。また旧規定の車両も出走可能である。今回は 3 チームが参加したが、完走は 0 チームであった。

☆ ワールド・ソーラー・チャレンジの最終日にあたる 10 月 25 日、東海大学チームはアデレード市内で行われたパレードと表彰式に参加した。レースのフィニッシュ地点であるビクトリア・スクエアから 1 キロメートルほど離れたビクトリア・パークまでの区間で行われたパレードには、この日までにゴールした全チームが参加。また、その後のアデレード・エンターテインメント・センターで開かれた表彰式では、地球儀をあしらったトロフィーが 3 位の東海大学チームに手渡された。

大会を振り返って、東海大学の木村総監督は、「会場から大きな拍手と暖かい歓声をもたらえたことは、私達がレースを戦うだけでなく、国際交流をしっかりとしているチームとして認められている証だと感じました。今回は 3 位という結果に終わりましたが、ソーラーカーレースはこれからも続いていきます。東海大が次回こそは優勝できるよう、しっかりと頑張っていきたい」と話していたとのこと。チームのさらなる飛躍を期待する。(YK)